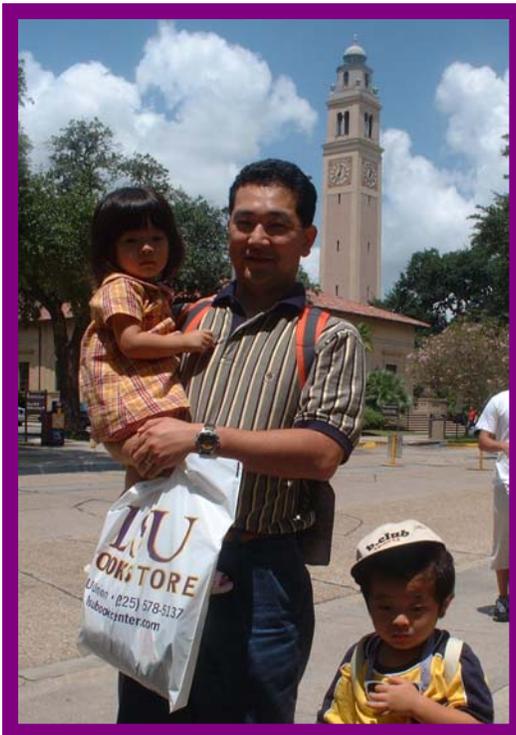


編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickev@pc4.so-net.ne.jp

サマー・イベント第2弾、サザン・ルイジアナ再訪



▲LSUの象徴、時計塔前にて (8/17)

1985年8月から86年6月にかけて、私はロータリー財団奨学生として、州都バトンルージュ市にあるルイジアナ州立大学（LSU）で過ごした。その際にロータリークラブで私の生活アドバイザーだったパーシー・ミラー教授は1997年にお亡くなりになったが、当時同州南部地区の国際ロータリーの代表をされていたアケイディア郡ミッドランドの米作農家のラルフ・カウエン夫妻は今もご健在で、ミッドランドの大邸宅を維持しつつも、普段は同郡クラウリー市で生活されている。

カウエン御夫妻は、去る7月1日に60回目の結婚記念日を迎えられた。6月30日にクラウリーで開かれたパーティーには私達も招待されたが、どうしても都合がつかず、代わりに8月中に一度訪問すると御夫妻に約束した。そこで、8月16日から19日にかけて、アメリカでの私の故郷へと里帰りの旅に出かけた。故ミラー教授夫人のデイジー未亡人も、今は3人の娘の住まいから程近いバトンルージュ近郊のシャーウッド・フォレスト地区に移って1人でお住まいである。8月に入って電話してみたところ、最近あまり体調が良くないとおっしゃっていたので、クラウリーまで行く途中で、バトンルージュにも立ち寄ってお見舞いすることにした。

ワシントンからニューオーリンズまでは飛行機の旅だ。16日は仕事を終えてから空港にマイカーで向かったため、駐車場からターミナルまで辿り着くのに時間がかかり、カウンター到着は出発15分前。渋い顔のカウンターのお姉様がそれでも気を利かせて下さったお陰でなんとか飛行機には乗れたが、預けたスーツケースは目的地に届かず、さらに預り証を美澄が機内に置き忘れるおまけまで付いて、前途多難を思わせる。ただ、翌朝には滞在先ホテルにスーツケースを届けてくれたユナイテッド航空の対応振りには頭が下がる。

17日、レンタカーで先ずバトンルージュへ。沿道のドライブインがカジノと化しているのがやたらと目立つ。1990年代前半にエドワーズ元州知事の下でカジノ導入が決議された影響だ。州財政建て直しのために、増税の代わりに州外からの客が投下するカネに期待して導入されたが、実際の利用客は州民ばかりで、中にはなけなしの貯金をはたいてカジノですった人も多く、実質大増税といったところだ。但し、カジノのライセンス料収入は老人福祉に使われており、今回訪問したミラー家でもカウエン家でも、自分は行かないけれどカジノは支持するとおっしゃっていた。

バトンルーージュでは先ず LSU キャンパスを訪れる。ユニオン・ビルのブックストアで LSU のロゴ入りシャツ等を購入した。少し LSU の PR をすると、ここは伝統的に農学系が強い。特にコメとサトウキビが有名だ。スポーツでは野球。1990 年代に 4 回全米チャンピオンになっている。今シーズン前にボルチモア・オリオールズを引退した強打者アルバート・ベルは、私の在学中に LSU でプレーしていた。次にバスケットボール。2 年連続 NBA チャンピオンのロサンゼルス・レイカーズの大黒柱シャキール・オニールは、1995 年当時 LSU でプレーしていた。そしてアメリカンフットボール。毎年多少の波はあるが、昨シーズンは 8 勝 4 敗と久々に勝ち越し、今年はプレシーズンランキングで全米 14 位に位置付けられている。



▲お元気そうで何より、デージー夫人 (8/17)

きなハンバーガーも食べられないとか。ちょっと寂しそうだった。2 時間ほど滞在したが、少しお疲れの様子が見えたので、失礼することにした。また来ると約束してミラー家を後にした。



▲一面の田圃の中の大邸宅。1949 年建造だとか。

デージー夫人を訪問した。思っていたよりも元気な様子にほっとする。夫人に会うのは 1989 年 3 月の卒業旅行以来だが、夫人は私の留学時代をよく覚えておられて、私の直後に受け入れた韓国人留学生の時は英語がわからずにもっと大変だったとしみじみとおっしゃっていた。昔話に花を咲かせていると、長女のダイアンが孫のオースティンを連れてやって来た。16 年前のサンクスギビングで会って以来だ。ダイアンももうお婆ちゃんなんだと思うと、16 年の歳月を感じざるを得ない。そういう自分も今では 2 人の子持ちだ。1 人暮らしでデージー夫人も寂しいのではと心配していたが、こうして頻繁に娘が訪ねてくれるので気楽に過ごせるようだ。16 年前は食事も自由に取っておられたが、今では食餌制限が必要で、大好

バトンルーージュから車をとばし、ミッドランドのカウエン宅に向かった。1995 年夏に美澄と新婚旅行で訪ねた時は、クラウリーの市街地のお宅に伺っただけで、ミッドランドの邸宅を訪問するのも 1989 年以來だ。インターネットで検索・印刷した地図と自分の記憶を頼りに車を走らせたが、やっぱり少し道に迷った。所要時間は約 2 時間だ。

クラウリー一帯は「アメリカのコメの首都」と言われるほど稲作が盛んな土地で、カウエンさんは土地の大地主だ。ミッドランドの邸宅の周辺は全てカウエンさんの農園だが、もうご自身では稲作をされていないそうで、邸宅に来るのは週に 2、3 回とか。サンクスギビングやクリスマス休暇には、全米各地に住む息子さん娘さん家族が帰ってきてここに滞在する。既に曾孫が 6 人いて、一番小さい子が 2 歳と 4 歳だそうだ(樹生達と同世代！)。

18 日、カウエンさんに「どこに行くか？」と聞かれて、私達が先ず考えたのはニュー・アイベリアにある「KONRIKO (コンラッド精米所)」だった。ここは全米最古の精米所で、KONRIKO ブランドのコメはワシントンでも売られている。また、精米所に隣接してギフトショップがあり、ここでは同ブランドの調味料や、この一帯に住む「ケイジャン」(フランス系アメリカ人)の文化を映したグッズ、書籍等が販売されている。先ずはとにかくお土産を買おうということになった。(因みにニュー・アイベリア近郊には「TABASCO」ブランドのマッキルヘニー本社があり、タバスコ工場も見学できる。)



また、ケイジャンは独特の音楽、食文化を持つ。アメリカ料理と云ったら美味しいものがなかなか思いつかないが、ケイジャン料理は美味しい。私達は、カウエン夫妻の案内で、レインにある「Roy's Chef」に出かけた。前菜でワニ肉のフライを食べ、美澄はガンボー・スープ、子供達はアメリカ・ザリガニのフライを平らげた。私のオーダーは「Crawfish Etouffee」、ケイジャン料理のレストランに行ったら必ず注文する定番だ。アメリカに居る間に、もっと極めたいと思う。レインは「アメリカのカエルの首都」と言われている。注文すればカエルの足も食べられるらしい。

カウエン夫妻は 23 歳で結婚されて、今年で結婚 60 周年。「長く結婚生活を

続ける秘訣は？」と美澄が聞いたところ、カウエンさんはすかさず、「エンジェル（天使）と結婚することだ。」 Roy's Chef で美澄が「このガンボーは美味しいんですか？」と聞くと、「キャサリンの作った最高のガンボー以外は食べたことがない。」とおっしゃった。自宅のデザートで市販のアイスクリームを食べても、キャサリン夫人に「君のアイスクリームはとても美味しい。」とおっしゃる。そういえば、私が始めて御夫妻に会った時も、「あなたの手は冷たいのね。」「でも僕のハートは温かいんだよ。」という会話をされていた。カウエンさんは、83 歳の今でも、ホンダの MT スポーツカーを乗り回し、クラウリーのカントリークラブでジムワークをなさっている。奥様の前では、いつまでもカッコいい夫であり続けようと努力されている。う～ん、自分にはちょっとできんなあ… せめて、美澄には「ありがとう」と言い続けよう。

樹生と千智もミッドランドの滞在には大満足。「アメリカの爺婆」にまた会いに来たいと言ってくれている。セミがサナギからかえるシーンとか、水田に鳴くカエルの声とか、自分達よりも大きい犬「ハンツ」とか、カウエンさんが孫用にと建てた裏庭の子供小屋とかタイヤのブランコとか、遊ぶ相手とスペースは十分だ。家族 4 人が飛行機で来ると、航空賃だけで 1500 ドル近くかかる。次はもう少し長めの休暇を取って、マイカーで来たい。ただ、バージニアと違ってルイジアナ州は財政が厳しくて道路のメンテナンスが悪く、一度や二度のパンクは覚悟しておいた方が良くも。

19 日、ミッドランドからの帰路、ラフィエット市で開催中だった「ケイジャン・フレンチ音楽祭」に立ち寄る。小型のアコーディオンとバイオリンとスチール・ギターで奏でるケイジャン音楽。会場の中心にはダンスフロアが用意され、バンド演奏が始まる度に、カップルがフロアに踊り出る。音楽に合わせて踊る千智が周囲のケイジャンおばさん達の注目を浴びる。こうして我が家はケイジャン文化にはまりつつある。

啞然呆然 夜の地下室

真夏の事件簿 (その1)

我が家は表通りから盛り土をした上に建っており、前庭に作られた階段をいったん上って 1 階の玄関に辿り着く。裏庭は 1 階の高さより少しだけ低めに作られている。車庫は表通りに面しており、ガレージと地下室は繋がっている。裏庭から地下室に入るには、裏庭にある地下への階段を下りてゆく。私が入居早々、カギを居間に置きっ放しの状態でガレージのシャッターを表から閉めてロックアウトを喰ら

った際、ガラスを割って家に入るのに使った扉はこの裏庭の地下室入り口にある。

入居する前、未だ住んでいたタチアナから家の中を案内してもらった際、地下室裏口階段下の踊り場の落ち葉をきちんと掃除しておかないと、雨の時に水が溜まって地下室内に逆流してくるから注意するよう言われた。それなりに注意していたが、たいていの雨では踊り場に水が少しでも溜まるというケースは全くなかった。

8月11日(土)のこと、美澄と私が髪を切ってもらうために、昼過ぎから車で外出した。行き先は車で1時間弱かかるバージニア州ウッドブリッジ、「ポトマック・ミルズ」という当地では超有名なアウトレット・モールが近くにある。散髪してもらっている間、アーリントンのある北の方角は黒い雲が立ち込めていて、ちょっと夕立でもあるかなと思っていた。出かける前は晴れていたし、ウッドブリッジも晴れだったし、帰路立ち寄ったアレキサンドリア市ではちょっとだけ雨がぱらついたけれど、降り方は大したことはなかった。帰宅した時も雨は小降りだった。

ところが、干してあった洗濯物を取り込もうと地下室に下りて行くと、地下室の殆ど全域が湖のように輝いていたので超ビックリ！下水が逆流した形跡はなく、裏口の踊り場を調べようと扉を開けてみると、そこも大きな水溜りになっていた。慌てて排水溝に溜まったゴミを取り除き、排水が流れるようにしたものの、地下室の水は溜まったままで、引越しの後片付けもせずに床に置きっ放しにしていた段ボール箱や、まとめ買いしてあったトイレット・ペーパー、ティッシュ・ペーパー、地下に籠って仕事でもできるようにと置いてあったダイニング・テーブル等、軒並み水浸しになった。

ここで気が付いたのは、室内の排水溝は決して室内で最も低い場所に作られているわけではないということだ。なんと、排水溝がある水場周辺は、浸水の被害を受けていなかった。ぼーっと見ても埒があかないので、取りあえず、箒で水をかいて排水溝に流し込んだ。段ボール箱の中には、靴とか書籍とかが入っていたが、海外引越貨物用段ボールは防水加工がされており、中身まではあまり濡れていなかったのは不幸中の幸いだった。翌日は、ホームセンターでコンクリート・ブロックを買って来て、棚が水に浸からないよう、かさ上げする対策を取った。段ボール箱の中身は全て出し、棚に収納するようにした。トイレット・ペーパーやティッシュ・ペーパーはすぐに新品をまとめ買いに出かけた。

実は、地下室にはトイレがあるが、これまで全く使ったことがなかった。ひょっとしてトイレから浸水したのかなと思い、トイレの便器の蓋を開けて中を見た。そこは、ネズミの死骸にウジがたかって、ひどい状態だった。最近、室内をハエが飛び回るのが気になっていたが、多分これが原因だ。それにしても、ネズミは蓋の閉まった便器の中にどうやって侵入したんだろう。真っ先に掃除したのは言うまでもない。第一発見者が私で良かった。美澄が見たら悲鳴を上げて気絶していただろう。

こうして大変な週末を過ごしたわけだが、ニュースを聞くところによると、ワシントン DC の市街地は通りが水浸しで、地下鉄も運休になったらしい。まさに東京の集中豪雨と一緒だ。近所にお住まいの JICA の戸田次長宅も地下室が水浸しになったが、ここは排水溝がない上に絨毯張りだったそうで、乾ききるまで臭いが大変だったとか。普段気付かないが、家を決める時はこんなところもチェックする必要があったのだ。我々は入居して 10 ヶ月になるが、借家のメンテナンスには油断禁物だという教訓を学んだ週末だった。(浩司)

私の仕事紹介(その4) **8月**は暇でしたが…

8月には紹介できるほどの仕事をしていません。世銀職員は、7月から8月にかけて休暇モード。2週間3週間と平気で休む。うちのチームリーダーは、7月15日から9月15日まで、途中1週間だけ出勤してきたけどあとはずっと休暇だ。私も休暇取ろうと思えば取れたのだが、そこは日本人特有の奥ゆかしさ、誰にも邪魔されず、今まで溜めてた書類を読みまくるチャンスと、比較的真面目に出勤した。でも、周囲が静かな中で読み物をやっているのと途中で眠くなる。だから、読んだ書類をまとめる意味で、

JICA への業務報告書も 8 月いっぱいかけてかなりまとめた。

「国際開発ジャーナル」誌への原稿も送付完了だ。念のためにと世銀東京事務所に骨子を知らせたところ、所長からいろいろと注文が付いた。世銀は日本の NGO やマスコミからあまり評判が良くないので、気を遣っておられるのでしょうか。まあそこは「本稿はあくまで個人的見解に基づき、組織の公式見解ではない」と断れば済むことなのでしょうと思わないでもないけれど、東京事務所を敵に回すのもなんなのでできるだけ注文に応じた。でも、欧米の NGO に比べて競争力がない日本の NGO が、世銀と一緒に仕事できないのを世銀側の努力不足と取るのはどうかなという気がする。

日本の ODA の 10%削減は、国際協力銀行 (JBIC) の円借款や世銀のような国際金融機関への拠出金の減額が中心となるそうだ。世銀から見ると今でも日本は遠いなあと感じているのだが、ますます遠ざかるような気がする。国際金融機関への拠出金が削られるのは、世銀等を経由する援助では日本の「顔」が見えにくいというのが理由らしいが、北欧やオランダ、イギリス等が自国の援助政策を実現するために世銀を利用しようとしているのを見ると、世銀を通じた援助の中で日本の「顔」を見せることだって、工夫すればできる筈だと思うのだが、そんな声はなかなか永田町 & 霞ヶ関には届かんなあ。(浩司)

パンクしちゃった～

真夏の事件簿(その2)

樹生の幼稚園の遠足に私と千智も参加して子供博物館の見学に行った 8 月のある日のこと。遠足が終わって家に帰ろうとして運転を始めたらか何か違和感があり、少し走って路肩に止めて確認したところ、右後輪がパンクしていました。幸い樹生の幼稚園が近かったのでそこまで戻り、校長室で電話を借りて AAA(トリプル A・日本の JAF みたいな組織)に電話して、タイヤ交換に来てもらう手配をしました。待つこと 40 分、AAA の車が来て、パンクしたタイヤで走った事を怒られましたが、スペアタイヤに交換してくれました。副校長にお礼を言って家に帰り、早めに帰宅してくれた浩司さんに、ガソリンスタンドに隣接する修理工場(こちらのガソリンスタンドはたいてい修理工場がついている)でパンクを修理してもらいました。AAA の出張費に 16 ドル、パンクの修理に 10 ドルかかりました。

8 月はそれだけでは済まず、28 日朝にも浩司さんが右前輪のパンクを発見、自分でタイヤ交換を試みましたがうまくゆかず、結局また AAA のお世話になったのでした。今度は私がガソリンスタンドに車を持って行き修理してもらったのですが、結局そのタイヤには 3 箇所釘が刺さっており、1 回目の修理では気がつかず、2 回修理屋さんを持っていくことになってしまいました。

日本でもパンクの経験があるのですが、こちらに来てから 1 ヶ月に 2 回もやるなんて、友達からは「山田さんって色々経験しているよね～」と妙に感心されてしまいました。私もやりたくてやっているわけではないけど、いったいいつ釘を踏んだのだろうか?(美澄)

ダクト・クリーニングのその後

真夏の事件簿(その3)

こちらの家はセントラル・ヒーティングです。ダクトと呼ばれる通気候を通して冷暖房をしますが、我が家のダクトから出てくる空気が汚く感じ、大家さんから了解を取ってダクト・クリーニングをしました。当日の作業は 2 時間半、終わった後の空気はやはりきれいな気がします。一番の違いはフィルターを掃除してもらって、空気の通りが良くなったのか、空調のノイズが減った事です。

しかし、クリーニングした後間もなく、掃除屋さんがオフにしておいた空気清浄機(エアコンの一部)のスイッチを入れると、「バッチ、バッチ」と虫が電灯にぶつかって死ぬ時のような音がし始めました。電話で苦情を掃除屋に言うと、人をよこすとのことでした。しかし、その指定日になり、予定時刻を過ぎようとしても誰も来る気配がないので、業者に電話をすると「今日でなく明日の予定になっている。」と言われ、改めて日にちを設定することになりました。しかし、設定したその日も来る気配

がなく、仕方なくまた業者に電話すると「このところの猛暑でエアコンが壊れている家が多く、そっちの方の緊急性が高いから…。それにエア・フィルターを掃除すれば大丈夫な筈だから、掃除してもまだ雑音がするようだったらまた電話して下さい。エア・フィルターの掃除は家の持ち主の義務です。」などと言われ、カーッと頭に血が上った私は「わかった。掃除してそれでも雑音がするようだったらまた電話する！」と言ってガツチャと電話を切りました。

確かに自分でフィルターの掃除をすると雑音はしなくなったのですが、3週間ぐらいするとまたバチバチ音がし始めました。またフィルターの掃除をしたのですが、3日ぐらいしてからひどい音がし始め、耐えられず例の業者に電話すると「9月4日にチェックに行きます。」と言われました。しかし、また待っていたのに誰も来なかったので、電話すると、責任者らしき男性が、「僕のコンピューターでは4日ではなく6日に行く予定になっている。」と言いました！私は思わず、「今朝そちらの女性から電話があって技術者が来ていないか問い合わせがあったので来ると思っていたけど、あんたのところはコンピューターが2台あって毎回違う事を言うのね。これで3回目の約束反古なんだけど。」という相手から何の謝罪の言葉もなく「6日の12時から2時の間に行きます。」といわれました。今度は直後に女性からの確認の電話があったのでちゃんと来るのかなとも思ったのですが、故意にやっているのでしょうか？結局6日にはちゃんと来ましたが4度目にしてようやくです。

アメリカでは、修理屋などを呼ぶ時、よく約束の日時に来ない事がありますが、今回のこの会社は一番ひどくほとほと参りました。このことは大家に申し送りをして絶対にこの会社を使わないようにしたいと思います。こんな事ぐらいしか出来ないのが悔しいです。私の時間を返して欲しい。途上国並みのサービスを何とかして欲しいですよね。(美澄)

編集後記

- 世銀のプレイ・グループにジェシーという中国人の女性が加わりました。彼女は「皆さんでどうぞ」と殻付きのひまわりの種や、かぼちゃの種くらいの大きさのスイカの種（ナッツ感覚で食べる）などをお土産に持って来てくれました。彼女がその殻を次から次へと実に上手にむいて食べているのを見て、私も食べてみると後を引く美味しさ。慣れてくるにつれて殻をうまく剥けるようになり、カリカリ、ポリポリと食べ始めたらなかなか「止められない、止まらない」状態です。海外にいと、食文化の違いを実感する事が多いのですが、彼女いわく、「日本で売っているかぼちゃやひまわりの種は殻がとってあって好きではなく、殻を剥く感覚を楽しみたい」という事でした。実際にやってみるとその通りだと思いました。大リーグで活躍中の新庄選手も試合の合間にひまわりの種を食べているそうですが、食べ始めたらなかなか美味しいですよね。(美澄)
- 8月は結構トラブルがありました。地下室浸水、パンク、エアコンの不調。そのたびに新しくアメリカの家の仕組や修理業者のことなどを知り、いい経験になっています。今のところマイナー・トラブルですが、帰るまで大きな問題も起こらず、いい経験をしたと思って帰れるようにしたいですね。(美澄)
- 7月号で紹介した美澄のTOEFLコース、8月号で紹介した樹生の体操教室、いずれも挫折することなく最後までやり遂げました。おめでとう！ 美澄の合気道も週1回ペースで継続中です。挫折したのは私のコネチカット行き。合宿に参加しないと昇段審査を受けられないと主催者から言われ、三段の日本剣道形審査受験を見送りました。先月号で紹介した全米剣連の夏合宿は、来年はラスベガスではなく東海岸のどこかであるらしいですが、その時までじっくり形を磨こうと思います。今は、10月のボルチモア・マラソン出場に向け、月間200kmの走り込みの真っ最中です。体重落ちてます！！(浩司)